

09-085

日時：平成 22 年 03 月 20 日（土） 15：00～18：20；京都テレサ

参加人数：51(8)名

主題：第 8 回近畿 SMBG セミナー「SMBG の現状と問題点、将来展望について」

第 I 部 基調講演

演題：SMBG の現状と患者指導について

講師：布井 清秀 先生（聖マリア病院 副院長）

第 II 部 パネルディスカッション

演者：大倉 瑞代 先生（糖尿病看護認定看護師）（京都大学医学部附属病院 看護部）

演者：佐藤 和生 先生（薬剤師）（京都逋信病院 薬剤部）

演者：荻野 和大 先生（臨床検査技師）（三菱京都病院 中央検査科）

演者：吉田 博 先生（ニプロ株式会社総合研究所第 3 研究開発部 部長）

共催：京都 CDE の会

共催：ニプロ株式会社

「SMBG の現状と問題点、将来展望について」をテーマとし、基調講演とパネルディスカッションの 2 部構成でセミナーが行われました。基調講演では聖マリア病院 布井 清秀先生に、パネルディスカッションでは看護師、薬剤師、臨床検査技師、血糖測定機メーカーそれぞれの立場から発表して頂きました。

SMBG は、今や糖尿病治療と血糖コントロールを行なう上でなくてはならない手段の一つです。発表では SMBG 実施群と未実施群とで HbA1c に差があるか集計をしたところ、実施群で HbA1c の改善がみられたとの興味深いデータも示されました。しかしながら患者にとっては面倒、痛い、費用が高いなど否定的な意見が少なくありません。また、毎日測定しているにも関わらずデータが指導に生かされていないこともあります。そこで私たちは患者データを分析しコントロールに活用できるようなアドバイスや、患者にコントロール感を感じてもらうサポートが必要となります。

一方、最近では測定機器の改良がめざましく、検体の微量化、測定時間の短縮、精度の向上が図られ、患者のニーズに応じた利便性の優れた機器も多く出回っています。今後は、第 4 世代の血糖自己測定システム(近赤外線による非侵襲的血糖測定)の実用化と持続血糖測定装置(CGMS)の開発が進んでおり期待されています。

私たちは SMBG が患者の生活改善へのきっかけとなり、よりよいコントロール状態に導けるようサポートしていきたいと思ひます。

平成 22 年 03 月 24 日 青山 絹子 報告